

発電機（ガソリン式・ガス式）

発電機は、エンジンにより発電し照明、テレビ、ラジオ、電熱器などの電源として活用します。この発電機を使用して、地域防災拠点に備蓄している投光機や移動式炊飯器を稼働させることができます。

地域防災拠点の備蓄庫には、ガソリン式及びガス式の発電機があり、それぞれ使用方法等が違いますので、正しく理解しましょう。

1. ガソリン式発電機（ホンダ）

種 類	EX900（本田技研工業株式会社）
乾 燥 重 量	25kg
エンジン形式	4サイクル空冷ガソリンエンジン
排 気 量	約 97cc
使 用 燃 料	自動車用無鉛ガソリン
タンク容量	約 2.8 リットル
備 蓄 数	1 台

1 部品名称



番号	名称	番号	名称	番号	名称
①	エンジンスイッチ	⑤	交流コンセント	⑨	燃料計
②	始動グリップ	⑥	直流出力端子	⑩	燃料給油キャップ
③	トップカバー	⑦	エンジンオイル給油キャップ	⑪	チョークレバー
④	電圧計	⑧	ハンドル	⑫	排気口

2 使用にあたっての注意点

- 1 室内や換気の悪い所では使用しない。(排気ガスによる一酸化炭素中毒の恐れがあります)
- 2 雨の中や水のかかる所では使用しない。
- 3 燃料のガソリン及びその気化ガスは、爆発性が高いので取扱いに注意する。
- 4 操作中に異常を感じた場合は、直ちに操作を中止する。

3 使用方法

【エンジンの始動】

手順 1 「⑩燃料給油キャップ」をはずし、自動車用無鉛ガソリンを入れる。

手順 2 発電機の「⑤交流コンセント」と「⑥直流出力端子」に何も差し込まれていないことを確認し、「①エンジンスイッチ」を「運転」に押し上げる。



手順3 「⑪チョークレバー」を「始動」の位置にあわせる。



何度か始動させエンジンが十分温まっている場合は、チョークを引く必要はありません。

手順4 「⑫始動グリップ」をゆっくり引き、ロープに著しい摩耗や損傷がないか確認をする。

手順5 後方を確認し、「⑫始動グリップ」を勢いよく引く。



手順6 エンジンが始動し、回転が安定したら「⑪チョークレバー」を「運転」の位置にもどす。

【電気の取り出し】「⑤交流コンセント」使用の場合

- 手順 1** 使用する電気機器の電源が切れていることを確認し、「⑤交流コンセント」に電源プラグを差し込む。



- 手順 2** 使用する電気機器の電源を入れて使用を開始する。

〈使用できる範囲〉

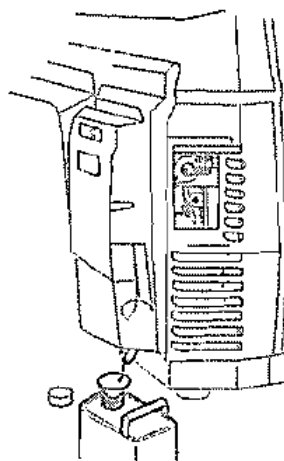
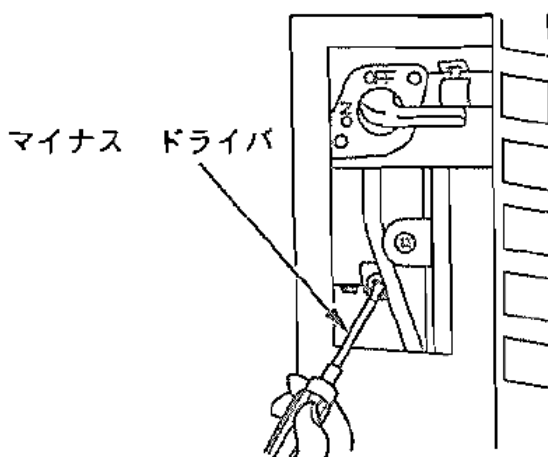
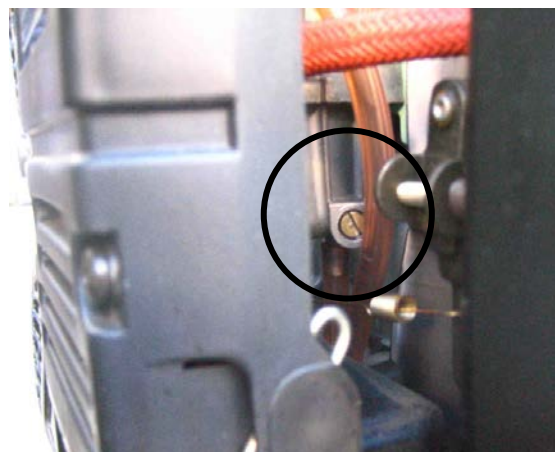
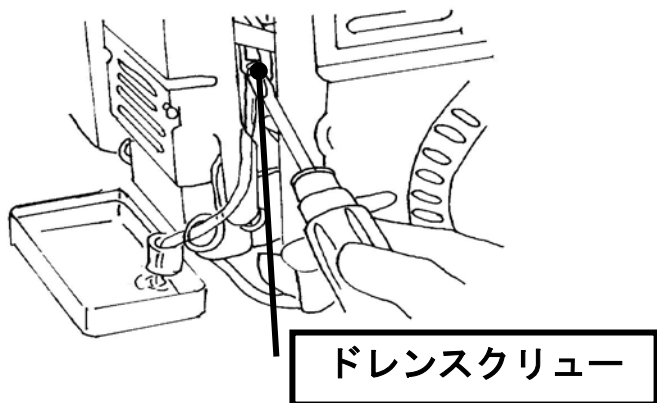
使用電気機器	使用範囲
一定の継続した負荷がかかるもの 照明、テレビ等（100Vのもの）	750W
通電時に大量の負荷がかかるもの ポンプ等のモーター類	200W
12V バッテリー充電（車のバッテリーなど）	8.3A

【エンジンの停止】

- 手順 1** 使用電気機器のスイッチを切り、電源プラグを抜く。
- 手順 2** 「①エンジンスイッチ」を「停止」にあわせる。

4 収納保管

手順1 エンジン停止中にドレンスクリューをゆるめ、余った燃料を用意した容器に取り出す。



手順2 ドレンスクリューを締め、エンジンを始動させ発電機に残っている燃料がなくなるまで運転する。

手順3 エンジンが停止したら「①エンジンスイッチ」を「停止」にし、エンジンが完全に冷えてから収納する。

廃油の処理

発電機等を使用し、取り出した燃料を地面や排水溝などに処分することは廃棄物処理法で禁止されています。

ガソリンスタンドなどで適正な処理を行ないましょう。

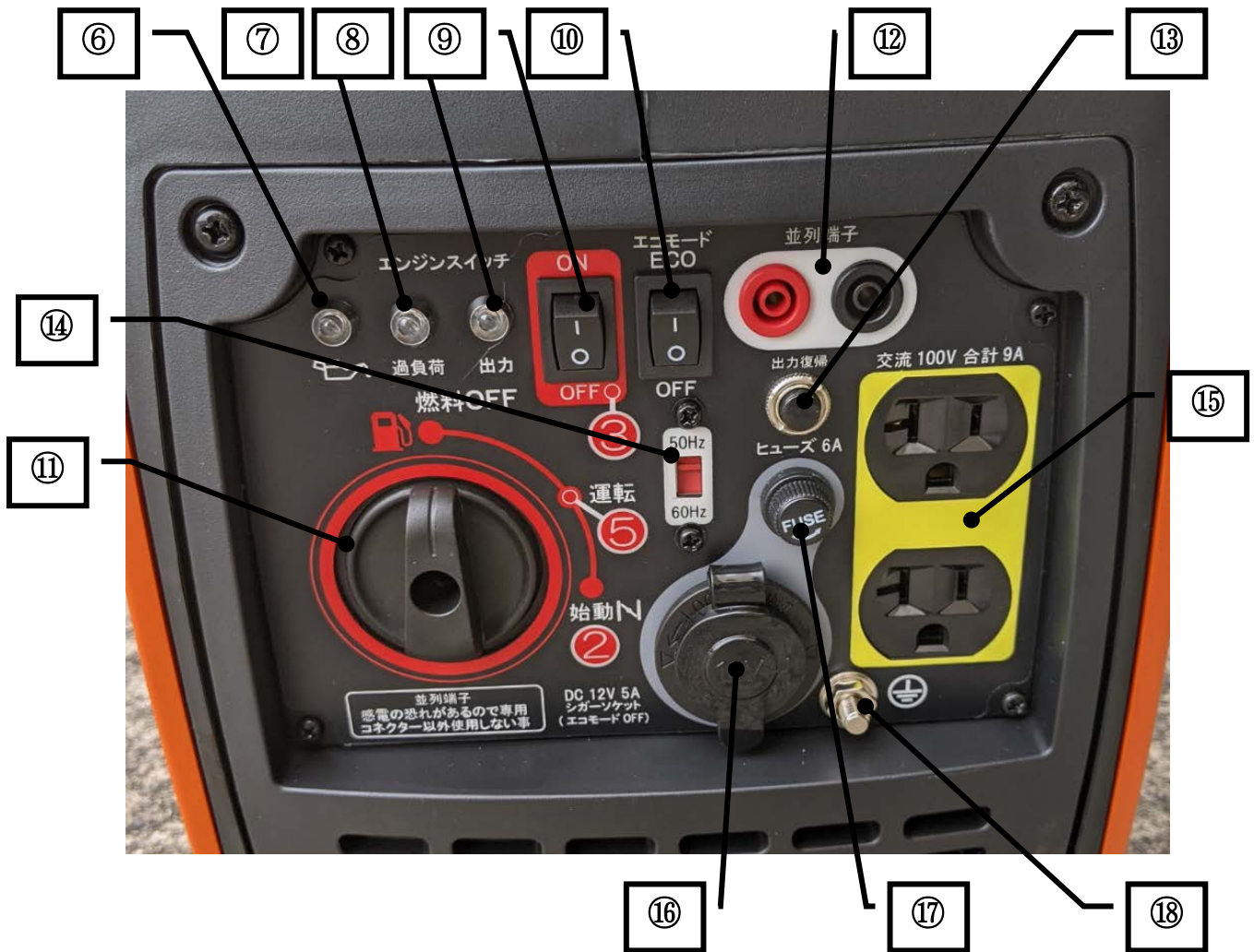
2. ガソリン式発電機（工進）

種 類	GV-9i（株式会社工進）
本 体 重 量	14kg
エンジン形式	空冷4サイクルガソリンエンジン
総排気量	60cc
使用燃料	自動車用無鉛ガソリン
タンク容量	2.6リットル
備 蓄 数	2台

1 部品名称



番号	名称	番号	名称	番号	名称
①	燃料タンクキャップつまみ	③	オイルプラグメンテナンスカバー	⑤	リコイルスターターグリップ
②	燃料タンクキャップ	④	メンテナンスカバー		



番号	名称	番号	名称	番号	名称
⑥	オイル警告ランプ(赤)	⑪	燃料コック兼チョークノブ	⑬	直流シガーソケット
⑦	過負荷警告ランプ(赤)	⑫	並列端子(交流用)	⑭	ヒューズ
⑧	出力ランプ(緑)	⑬	出力復帰ボタン(交流用)	⑮	アース端子
⑨	エンジンスイッチ	⑭	周波数切替スイッチ		
⑩	エコモードスイッチ	⑮	交流コンセント		

2 使用にあたっての注意点

- 1 室内や換気の悪い所では使用しない。(排気ガスによる一酸化炭素中毒の恐れがあります)
- 2 雨の中や水のかかる所では使用しない。
- 3 燃料のガソリン及びその気化ガスは、爆発性が高いので取扱いに注意する。
- 4 操作中に異常を感じた場合は、直ちに操作を中止する。

3 使用方法

【エンジンの始動】

手順 1 「②燃料タンクキャップ」をはずし、自動車用無鉛ガソリンを入れる。

手順 2 発電機の「⑭交流コンセント」と「⑮直流シガーソケット」に何も差し込まれていないことを確認する。

手順 3 「①燃料タンクキャップつまみ」を「ON(開)」にする。



手順4 「⑩燃料コック兼チョークノブ」を「始動」にする。

※エンジンが温まっている場合や夏期は「運転」にする

手順5 「⑧エンジンスイッチ」を「ON」、「⑨エコモードスイッチ」を「OFF」にする。



手順6 「⑤リコイルスターターグリップ」をゆっくり引き、ロープに著しい摩耗や損傷がないか確認をする。

手順7 後方を確認し、「⑤リコイルスターターグリップ」を引いて重くなるところを探し、重くなったところから「⑤リコイルスターターグリップ」を勢いよく引く。



手順8 エンジンがかかったら、「⑤リコイルスターターグリップ」をゆっくり元の位置に戻す。

手順 9 エンジン始動後、「⑩燃料コック兼チョークノブ」を「運転」の位置にして暖機運転を行う。



【電気の取り出し】「⑭交流コンセント」使用の場合

手順 1 使用する電気機器の電源が切れていることを確認し、「⑭交流コンセント」に電源プラグを差し込む。



手順 2 使用する電気機器の電源を入れて使用を開始する。

※消費電流の合計が上限を超えないようにすること。

消費電流の合計：9 A

【エンジンの停止】

手順1 使用電気機器のスイッチを切り、電源プラグを抜く。

手順2 「⑩燃料コック兼チョークノブ」を「燃料オフ」の位置にする。



手順3 エンジン停止まで待つ。(約5分)

手順4 エンジンが止まったら「⑧エンジンスイッチ」を「OFF」にする。



手順3 エンジンが十分に冷えてから、「①燃料タンクキャップつまみ」を「OFF(閉)」にする。



4 収納保管

手順1 「⑧エンジンスイッチ」を「OFF」にしてエンジンを停止する。

手順2 「②燃料タンクキャップ」及びストレーナーを取り外し、市販の手動式ガソリン用ポンプを使用して燃料を抜く。



手順3 「②燃料タンクキャップ」及びストレーナーを取り付ける。

手順4 「①燃料タンクキャップつまみ」を「ON(開)」にする。

手順5 「⑩燃料コック兼チョークノブ」を「始動」にする。

※エンジンが温まっている場合や夏期は「運転」にする。

手順6 「⑧エンジンスイッチ」を「ON」、「⑨エコモードスイッチ」を「OFF」にする。

手順7 「⑤リコイルスターターグリップ」を引いて、エンジンを始動する。

手順8 始動後、エンジンの回転が安定したら、「⑩燃料コック兼チョークノブ」を「運転」の位置にする。

※電気機器は接続しない。

手順8 エンジンが「ガス欠状態」で停止するまで待つ。

手順9 「④メンテナンスカバー」を取り外す。ネジを取り外し、「④メンテ

「メンテナンスカバー」を外側に引く。

- 手順 10** 排出するガソリンを受ける容器を用意し、キャブレターのドレインパイプを容器で受け、ドレインネジをマイナスドライバーでゆるめて燃料を抜く。



- 手順 11** ドレインネジを締め付け、ドレインパイプを元に戻す。
- 手順 12** 「⑧エンジンスイッチ」「⑩燃料コック兼チョークノブ」「①燃料タンクキャップつまみ」をすべて「OFF（閉）」にする。
- 手順 13** 「④メンテナンスカバー」「③オイルプラグメンテナンスカバー」を取り付けて、ネジを確実に締め付ける。
- 手順 14** 室内で湿気が少なく換気の良い場所に保管する。

廃油の処理

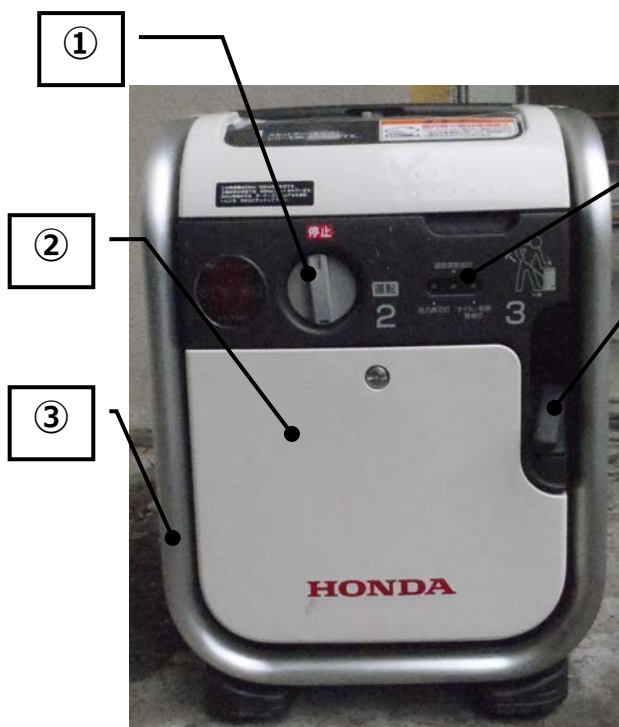
発電機等を使用し、取り出した燃料を地面や排水溝などに処分することは廃棄物処理法で禁止されています。

ガソリンスタンドなどで適正な処理を行ないましょう。

2. ガス式発電機

種 類	EU9iGB（本田技研工業株式会社）
乾 燥 重 量	19.5kg
エンジン形式	空冷4ストローク立型（OHV）
総排気量	57.3cc
使用燃料	LPG（液化ブタン/指定カセットボンベ）
タンク容量	500g（カセットガス2本の容量）
備蓄数	3台

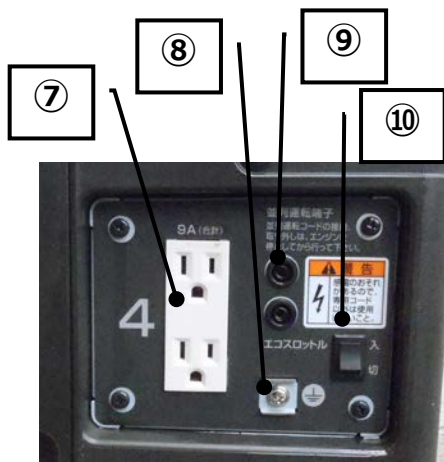
1 部品名称



(前面)



(背面)



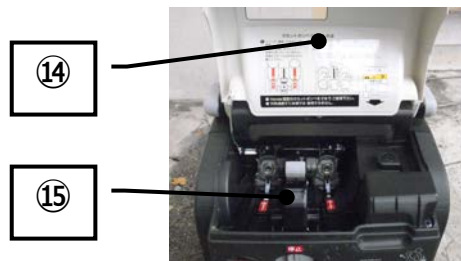
(右側面)



(左側面)



(前面下 (メンテナンスカバーを開けた状態))



(前面下 (ボンベカバーを開けた状態))

番号	名称	番号	名称	番号	名称
①	エンジンスイッチ	⑥	始動グリップ	⑪	排気口
②	メンテナンスカバー	⑦	交流コンセント	⑫	周波数切り替えスイッチ
③	キャリーハンドル	⑧	アース端子	⑬	オイル給油口
④	リアハンドル	⑨	並列運転端子	⑭	ボンベカバー
⑤	左：出力表示灯 中央：過負荷警告灯 右：オイル／転倒警告灯	⑩	エコスロットルスイッチ	⑮	操作レバー

2 使用にあたっての注意点

- 1 室内や換気の悪い所では使用しない。（排気ガスによる一酸化炭素中毒の危険性あり）
- 2 雨の中や水のかかる所では使用しない。
- 3 排気口のそばに燃えやすいものを置かない。
- 4 操作中に異常を感じた場合は、直ちに操作を中止する。
- 5 エンジンの始動にあたっては、発電機のコンセントから使用器具のプラグが抜いてあることを確認する。

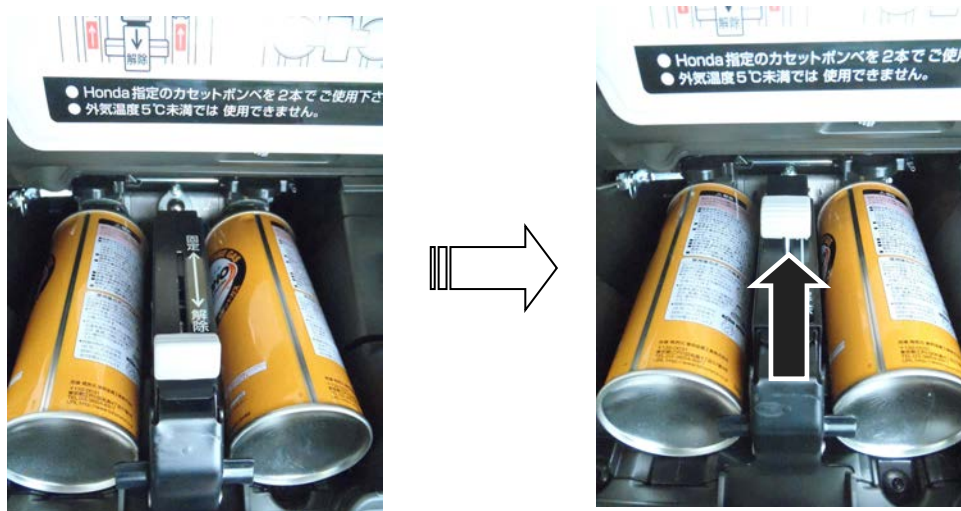
3 使用方法

【エンジンの始動】

手順 1 「⑭ボンベカバー」を開け、「⑮操作レバー」が手前（解除）にあることを確認し、カセットボンベを2本差し込む。

※ボンベの先端の口金の割れ目が下に来るように差し込む

正しく差し込んだら、「⑭操作レバー」を奥にスライドし、固定する。



手順 2 発電機の「⑦交流コンセント」と「⑨並列運転端子」に何も差し込まれていないことを確認し、「①エンジンスイッチ」を「運転」の位置に合わせる。



手順 3 「⑥始動グリップ」をゆっくり引き、ロープに著しい摩耗や損傷がないか確認をする。

手順 4 後方を確認し、「⑥始動グリップ」を勢いよく引く。



手順 5 約 1 分間の暖機運転を行う。

【電気の取り出し】

- 手順 1** 使用する電気機器の電源が切れていることを確認し、「⑦交流コンセント」に電源プラグを差し込む。



- 手順 2** 使用する電気機器の電源を入れて使用を開始する。

〈使用できる範囲〉

使用電気機器	使用範囲
一定の継続した負荷がかかるもの 照明、テレビ等	900W
通電時に大量の負荷がかかるもの ドリル、モーター（種類によっては使用不可）等	400W

【エンジンの停止】

- 手順 1** 使用電気機器のスイッチを切り、電源プラグを抜く。
- 手順 2** 「①エンジンスイッチ」を「停止」にあわせる。



4 収納保管

手順1 エンジンが停止したら、カセットボンベを取り外す。

※「⑭操作レバー」を手前に引いて、解除してから取り出す



手順2 「①エンジンスイッチ」を「運転」に合わせ、再度エンジンを始動させ、発電機内の残留ガスがなくなるまで運転する。

手順3 エンジンが停止したら「①エンジンスイッチ」を「停止」にし、エンジンが完全に冷えてから収納する。